

食育推進団体における食育取組状況調査結果

I 調査の概要

1 目的

「宮城県食育推進プラン」に基づき、食育を効果的かつ円滑に推進するため、県民、行政、学校、保育所等の関係機関及び地域が共に支えあい、それぞれの役割に応じて主体的に活動を行っているところであるが、平成22年度に計画終期を迎えるにあたり、各食育推進団体の取組状況を量的、質的に把握し「宮城県食育推進プラン」策定の参考資料とするもの。

2 調査対象

(1) 食育推進団体

- ① 宮城県食育推進会議委員が所属する団体及び下部組織団体
- ② 各圏域に設置されている食育推進連絡会議構成団体
- ③ 各市町村で把握している団体（ボランティア団体等）

(2) 調査協力を得られた団体概要

団体 \ 地域	仙南	仙塩	大崎	栗原	石巻	登米	気仙沼	合計
保育所	31	107	18	14	27	5	13	215
食改	10	13	5	1	2	1	2	34
婦人会	12	6	3	0	1	2	0	24
栄養士会	2	6	2	2	2	2	2	18
農協	1	4	6	2	2	2	2	19
教育関係	1	1	5	2	2	2	1	14
その他	4	7	10	4	5	5	5	40
合計	61	144	49	25	41	19	25	364

※ 実団体数は331団体であるが、活動地域が複数の地域に及んでいる団体がある。

3 調査項目

- ① 活動地域 ② 活動分野 ③ 取組内容 ④ 食育関連情報の発信状況 ⑤ 食育の取組状況（量的変化）
- ⑥ 食育の取組状況（質的変化） ⑦ 他機関、他団体との連携・協働状況 ⑧ 連携した分野及び内容
- ⑨ 連携・協働による成果 ⑩ 連携・協働に係る課題 ⑪ その他（意見・提案） ⑫ 取組事例

4 調査時期

平成21年9月1日 から 10月15日

5 調査方法

郵送による配布及び回収

6 調査集計・分析

宮城県保健福祉部健康推進課食育推進班

Ⅱ 結果概要 (団体別分析)

問1 活動地域について、該当する項目に○をつけてください。

- 1 仙南地区
- 2 仙台・塩釜地区
- 3 大崎地区
- 4 栗原地区
- 5 石巻地区
- 6 登米地区
- 7 気仙沼地区

集計結果

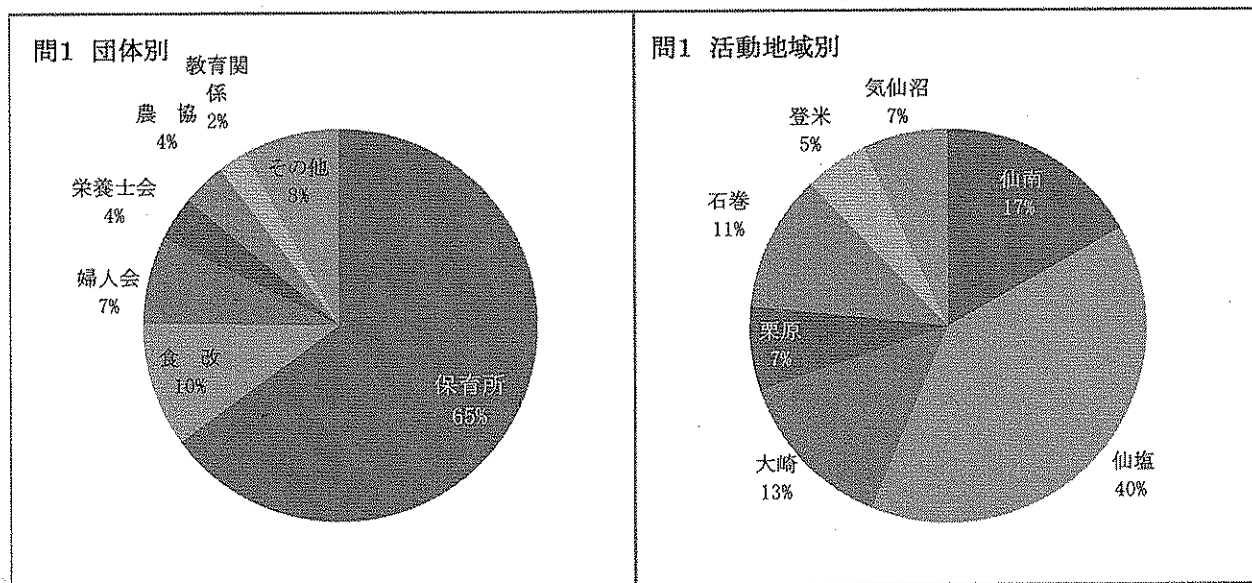
(単位:団体)

	実数	仙南	仙塩	大崎	栗原	石巻	登米	気仙沼	計
保育所	215	31	107	18	14	27	5	13	215
食改	34	10	13	5	1	2	1	2	34
婦人会	24	12	6	3	0	1	2	0	24
栄養士会	12	2	6	2	2	2	2	2	18
農協	12	1	4	6	2	2	2	2	19
教育	8	1	1	5	2	2	2	1	14
その他	26	4	7	10	4	5	5	5	40
計	331	61	144	49	25	41	19	25	364

※実団体数は331団体であるが、活動地域が複数に及んでいる団体があるので、地域別では364団体となっている。

※食改……食生活改善推進員連絡協議会

※教育……PTA, 教育委員会, 幼稚園, 小学校



・地域別では、「仙台・塩釜地区」が39.6%で、以下、「仙南地区」が16.8%、「大崎地区」が13.5%と続いている。

・団体別では、「保育所」が65.0%で、以下、「食生活改善推進員連絡協議会」が10.3%、「その他」が7.9%と続いている。

問2 貴団体の食育活動分野について、下記の中から該当するもの全てに○をつけてください。

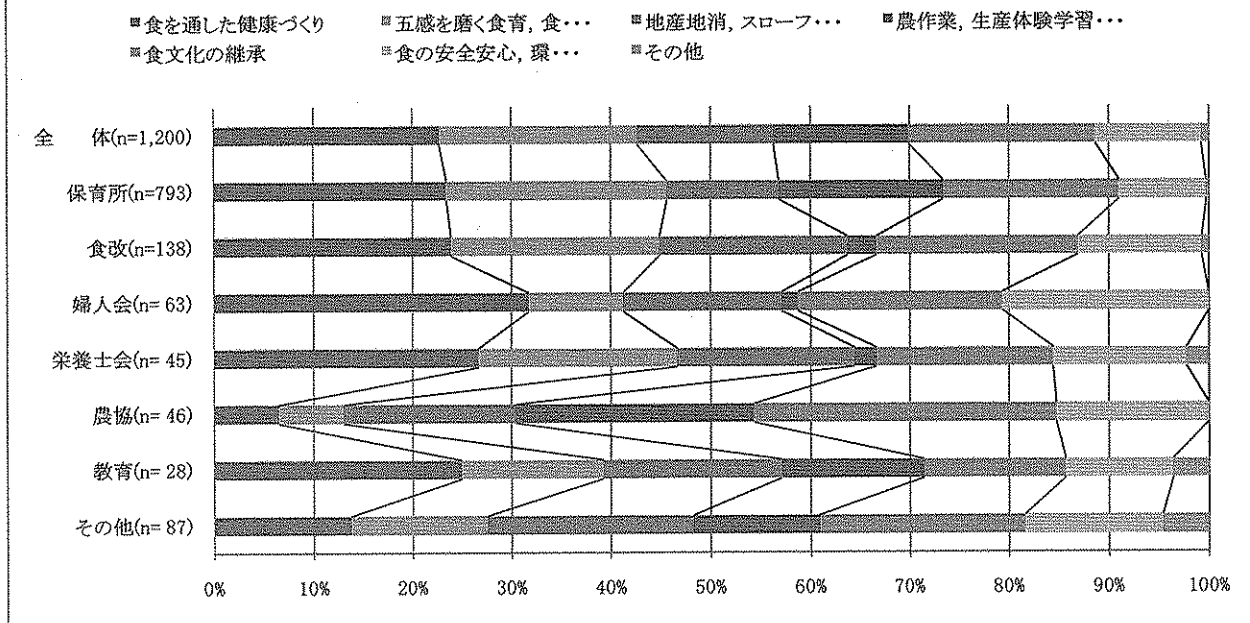
- 1 食を通した健康づくり
- 2 五感を磨く食育, 食育全般に関すること
- 3 地産地消、スローフードの推進
- 4 農作業, 生産体験学習等への取組支援(食農教育)
- 5 食文化の継承
- 6 食の安全安心, 環境に配慮した食料の生産・消費の推進
- 7 その他()

集計結果

(単位:団体)

	保育所	食改	婦人会	栄養士会	農協	教育	その他	計	%
1	188	33	20	12	3	7	12	275	22.9%
2	176	29	6	9	3	5	12	240	20.0%
3	89	27	10	8	8	5	18	165	13.8%
4	131	4	1	1	11	4	11	163	13.6%
5	140	28	13	8	14	4	18	225	18.8%
6	69	17	13	6	7	3	13	128	10.7%
7	0	0	0	1	0	0	3	4	0.3%
計	793	138	63	45	46	28	87	1,200	100.0%

問2 活動分野



・全体では、「食を通した健康づくり」が22.9%で、以下、「五感を磨く食育…」が20.0%、「食文化の継承」が18.8%と続いている。

※ 7その他()の内訳

- ・子育て支援など
- ・地域づくり
- ・教育旅行の受け入れ

問3 次の食育の取組で実施したことがあるもの全てに○をつけてください。

- 1 栄養のバランスに関する食育(食生活指針・食事バランスガイド・日本型食生活に関すること)
- 2 生涯を通した健康づくり・生活習慣病予防のための食生活に関すること
- 3 はやね・はやおき・あさごはん推奨、食生活リズムに関すること
- 4 食の判断力、選択力を養うための食講座
- 5 五感を使った食育、豊かな心を育む食育
- 6 親子で楽しい食体験教室(親子料理教室等)
- 7 地場野菜(県産野菜)を使った料理教室
- 8 魚に関する理解と普及を目的にした取組
- 9 グリーンツーリズム、農・漁業に関する体験学習の取り組み、生産者と消費者との交流
- 10 地域食材を活用した郷土料理、行事食の伝承
- 11 環境にやさしい暮らし方と食生活、食べ物を大切にする取組等
- 12 食の安全安心に関する取り組み
- 13 その他()

集計結果

(単位:団体)

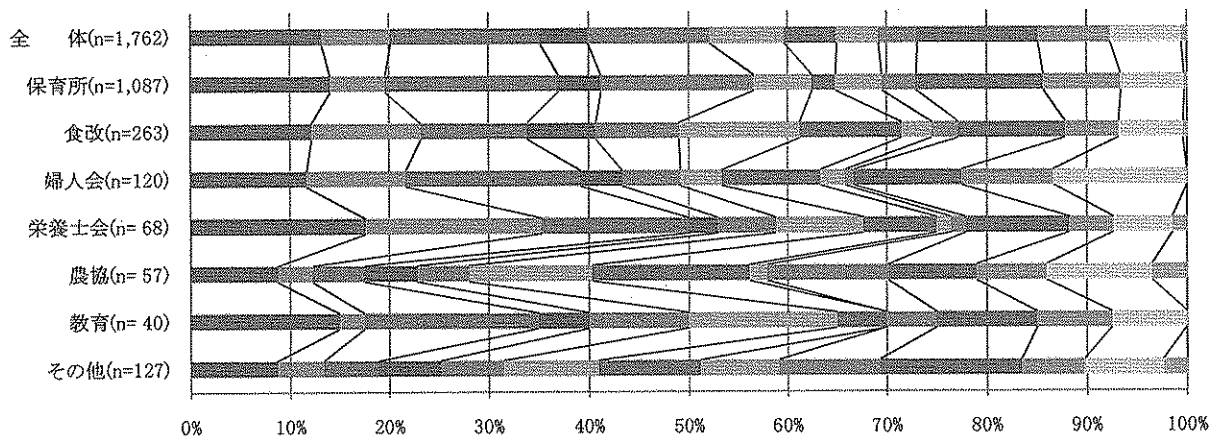
	保育所	食改	婦人会	栄養士会	農協	教育	その他	計	%
1	11	6	5	12	14	32	153	233	13.2%
2	6	1	2	12	12	29	60	122	6.9%
3	7	7	3	10	21	28	189	265	15.0%
4	8	2	3	2	5	18	46	84	4.8%
5	8	4	3	4	7	22	167	215	12.2%
6	12	6	7	6	5	32	64	132	7.5%
7	13	2	9	5	12	27	26	94	5.3%
8	10	0	1	1	3	8	51	74	4.2%
9	13	2	7	1	1	7	37	68	3.9%
10	18	4	5	7	13	28	138	213	12.1%
11	8	3	4	3	11	14	84	127	7.2%
12	10	3	6	4	16	17	69	125	7.1%
13	3	0	2	1	0	1	3	10	0.6%
計	127	40	57	68	120	263	1,087	1,762	100.0%

※ 13その他()の内訳

- ① 野菜摂取推進の取り組み
- ② 環境にやさしい野菜づくり
- ③ 精神障害者の自立についての食育
- ④ 大学と自治体との協力
- ⑤ プチシェフコンテスト(小学校一年生から18才以下を対象とした料理コンテスト。世代間の交流、食育を目的)
- ⑥ クッキング
- ⑦ 園庭栽培した食材を使用したクッキング

問3 取組内容

- 栄養のバランス...
- 生涯を通した健康...
- はやね・はやおき...
- 食の判断力、選...
- 五感を使った食...
- 親子で楽しい食...
- 地場産野菜(県産...
- 魚に関する理解...
- グリーンツーリス...
- 地域食材を活用...
- 環境にやさしい...
- 食の安全安心に...
- その他



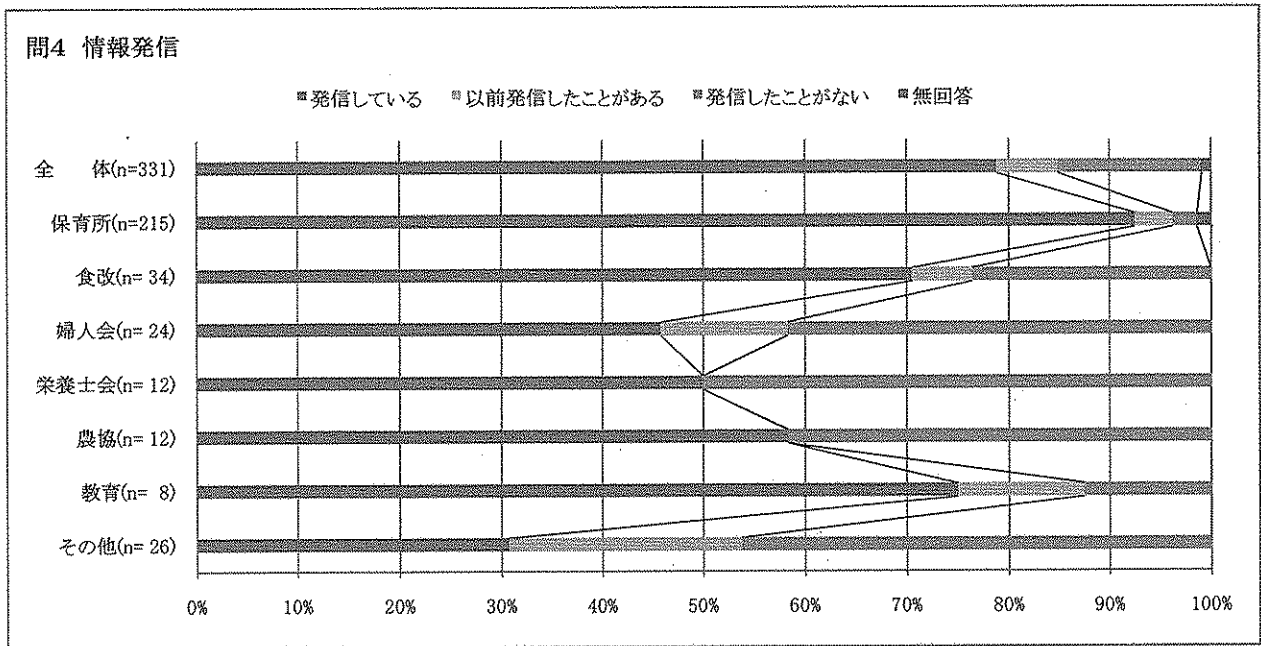
・全体では、「はやね・はやおき...」が、15.0%で、以下、「栄養のバランス...」が13.2%、「五感を使った食...」が12.2%、「地域食材を活用...」が12.1%と続いている。

問4 食育関連の情報を発信していますか。

- 1 発信している(①いつから: 年より
(②どんな情報媒体でどんな内容:)
- 2 以前発信したことがあるが、平成21年度は発信していない
- 3 発信したことがない

集計結果 (単位:団体)

	保育所	食改	婦人会	栄養士会	農協	教育	その他	計	%
1	199	24	11	6	7	6	8	261	78.9%
2	8	2	3	0	0	1	6	20	6.0%
3	5	8	10	6	5	1	12	47	14.2%
無回答	3							3	0.9%
計	215	34	24	12	12	8	26	331	100.0%

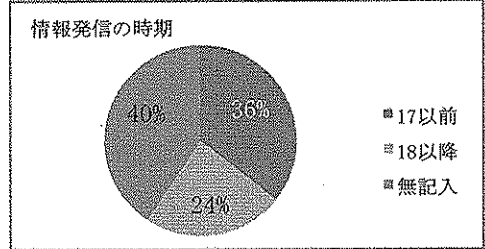


- ・全体では、78.9%の団体で情報発信をしている。
- ・また、以前発信したことがあるを含めると、84.9%の団体で情報発信をしている。

・情報発信の時期

集計結果 (単位:団体)

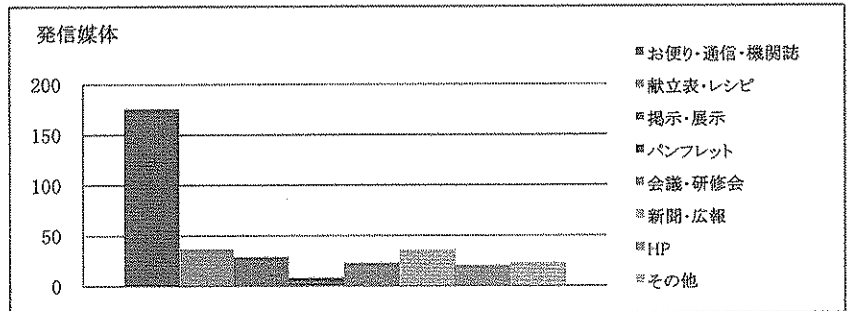
	保育所	食改	婦人会	栄養士会	農協	教育	その他	計
H17以前	63	13	5	4	3	1	4	93
H18以降	47	5	3	1	1	3	2	62
無回答	89	6	3	1	3	2	2	106
計	199	24	11	6	7	6	8	261



・発信媒体

集計結果

媒体	件数
お便り・通信・機関誌	176
献立表・レシピ	37
掲示・展示	29
パンフレット	8
会議・研修会・懇談会	23
広報・新聞	35
HP	20
その他	23
計	351



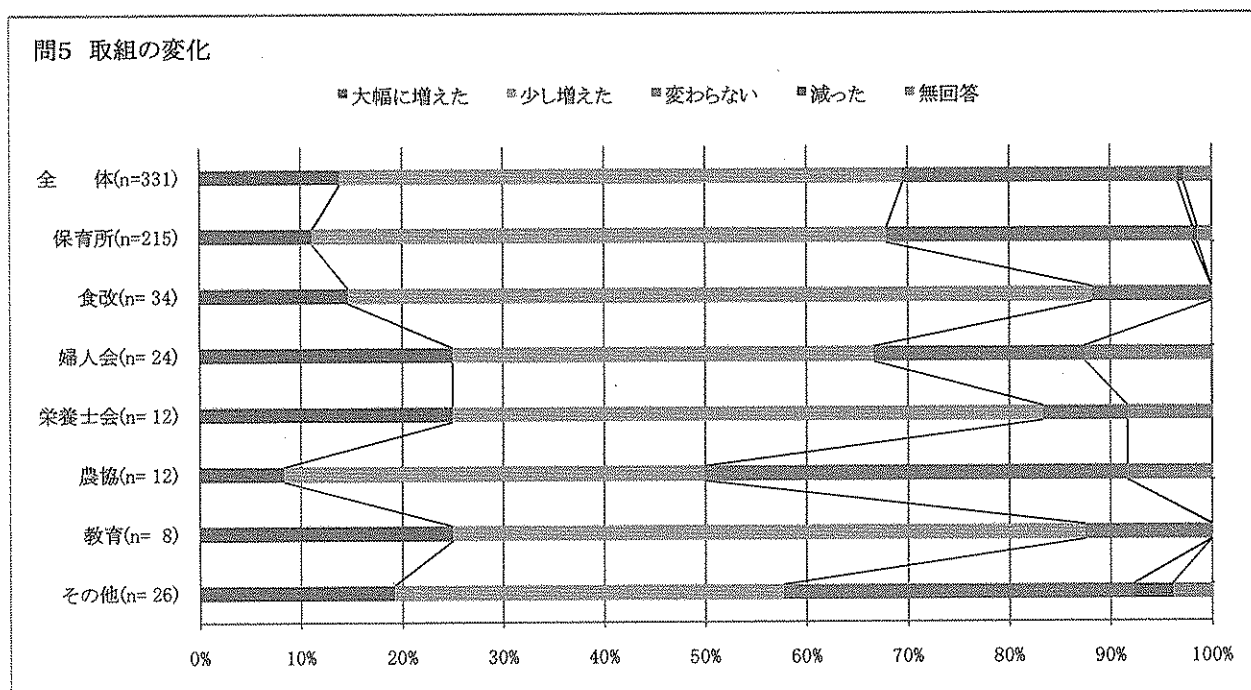
問5 平成18年に「宮城県食育推進プラン」が作成されておりますが、それ以降、貴団体における食育の取組に変化がありますか。主観的判断で結構ですので、該当するものに○をつけてください。

- 1 大幅に増えた
- 2 少し増えた
- 3 変わらない
- 4 減った

集計結果

(単位:団体)

	保育所	食改	婦人会	栄養士会	農協	教育	その他	計	%
1	24	5	6	3	1	2	5	46	13.9%
2	122	25	10	7	5	5	10	184	55.6%
3	65	4	5	1	5	1	9	90	27.2%
4	1	0	0	0	0	0	1	2	0.6%
無回答	3		3	1	1		1	9	2.7%
計	215	34	24	12	12	8	26	331	100.0%



- ・全体では、「少し増えた」が55.6%で、以下、「変わらない」が27.2%、「大幅に増えた」が13.9%と続いている。
- ・また、「大幅に増えた」と「少し増えた」を合わせると、69.5%となっている。

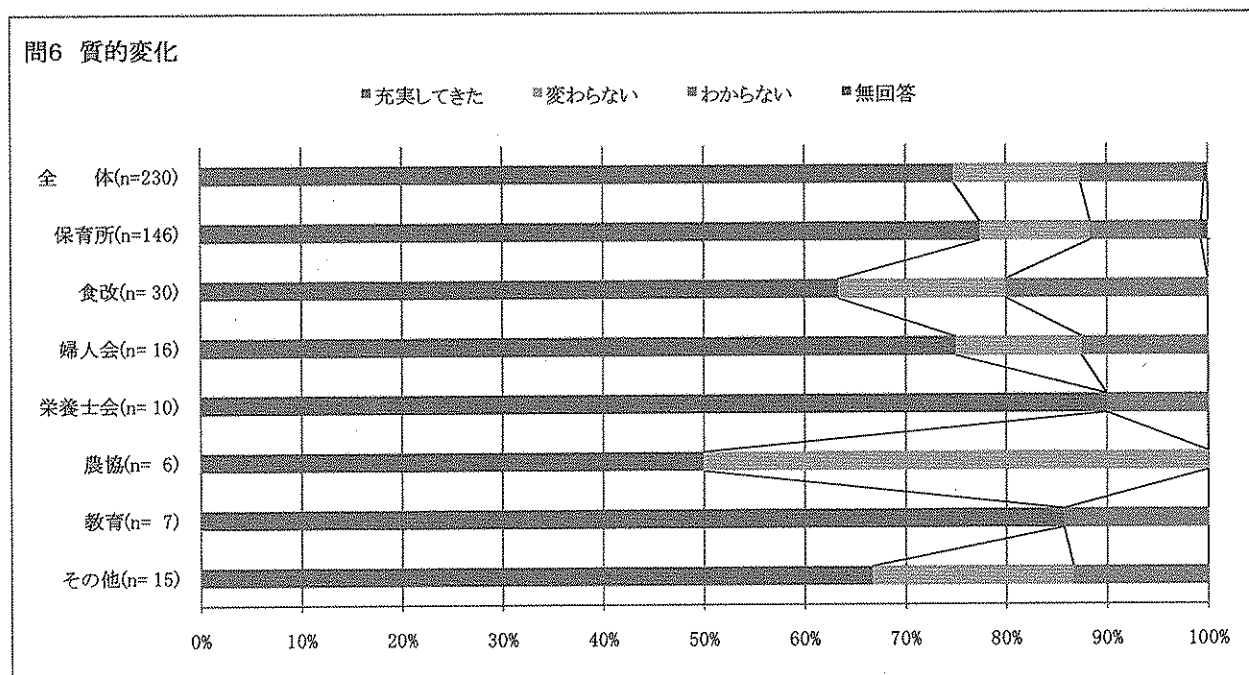
問6 問5で1及び2に回答された方にお尋ねします。
質的にはどのように変化しましたか

- 1 充実してきた(具体的に:)
2 変わらない
3 わからない

集計結果

(単位:団体)

	保育所	食改	婦人会	栄養士会	農協	教育	その他	計	%
1	113	19	12	9	3	6	10	172	74.8%
2	16	5	2	0	3	0	3	29	12.6%
3	16	6	2	1	0	1	2	28	12.2%
無回答	1							1	0.4%
計	146	30	16	10	6	7	15	230	100.0%



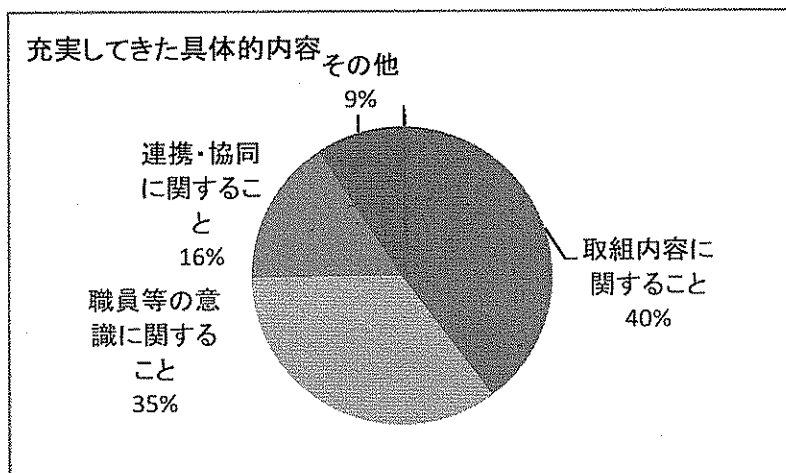
・全体では、「充実してきた」が74.8%になっている。

※充実してきた具体的内容……別添 (P8~P12)

問6 質的にはどのように変化しましたか

集計結果

区 分	件数
取組内容に関すること	60
職員等の意識に関すること	53
連携・協同に関すること	24
その他	14
計	151



1 充実してきた具体的内容 151件

(1)取組内容に関すること 60件

	具 体 的 内 容
1	講座の依頼が増え、内容も充実した。
2	学習会や料理教室など、食育プランを意識している。
3	食事に関心を持つようになった。(自分たちで作った野菜類(ボカシを使った野菜です)を利用し食卓を豊かにすることを進めている)
4	小学校や保育所に行き、紙芝居を作ったの食教育やはやねはやおき、あさごはん(推奨)ダンスの実施。
5	参加者の増、あぐりスクール全国サミットの開催。
6	現在、県と共催で開催している「野菜キャンペーン」のような地域へ還元する活動ができた。
7	PTA食育推進委員(いちごの会)の自主研修の充実。
8	計画に沿って実施できている。
9	農家レストランを開業、教育ファームの開所。
10	給食担当者と保育担当者と一緒に、計画的に取り組んでいる。
11	食材に触れる、包丁等を使用した調理、おやつ仕上げ等。
12	食育活動も行事として取り組むようになった。
13	魚に触れる体験。
14	食育指導や調理保育などに積極的に取り組んでいる。
15	懇談会において、保護者への食育に関する話を行った。
16	クッキング保育を増やしていった。
17	食育計画をもとに活動を行うようになった。また、計画も保育士との話し合いによって決めるようになった。
18	計画を立て、ねらいを持ち活動するようになった。
19	対象年齢に応じて、活動内容の幅が少し広がった。
20	畑を拡張し栽培する種類、量が増えた。
21	保護者への啓蒙、食育だより、食育展など。
22	畑づくり(野菜)、祖父母とのクッキング、カレーパーティー。
23	JA女性部との苗植え。

具 体 的 内 容	
24	栄養士による子供、親対象の各講座・栄養士、調理師、保育士の連携・植栽とクッキングの内容の広がり。
25	名取市食育推進検討委員会が発足、食育研修会が年2回行われている。
26	ミニ菜園作りや、とうもろこしの皮むき、枝豆もぎなどの体験を通して、働く人々の感謝の気持ちと食への関心が高まってきたように感じる。
27	市の栄養士、施設の栄養士の指導の基に、食育全般にわたり充実してきた。
28	多賀城市の食育計画をもとに保育所独自の食育計画を作成し、それをもとに野菜作り、クッキング保育、保護者への啓蒙などを行っている。
29	畑で育てた野菜を子供たちと一緒に調理する回数が増えた。
30	野菜栽培に積極的に取り組む。五感を意識した食育活動に取り組む。
31	見て、さわって、作って、食べて、学んでの”5つの手”の実践を行った。 保育所では畑に野菜の種や苗を植え、成長過程を見たり、子ども達が水かけをして育てた。 野菜を収穫し、匂い、手触りを感じる。 収穫した野菜を給食の材料に取り入れると喜んで食べる。野菜の苦手な子も一口でも食べようとしたり、進みも良くなった。 また、収穫した野菜でクッキングを行い楽しく調理できた。食べる喜びと食物への感謝の気持ちを持つ子が多くなった。
32	今年度初めて、畑づくりを計画立案し実践した。
33	本日の材料を見せたり触れたり、給食を作っている姿が見える様に工夫したりしている。毎日の食事に興味を持ち残食も減っている。
34	保育に食育を取り入れてきている。
35	学童農園への参加(さつまいもを植えにいっている)、地元業者(魚屋)に行き、魚をさばくところを見学。
36	学童農園への参加(さつまいもを植えにいっている)、地元業者に協力をもらい、お店に訪問し魚の解体見学。
37	”給食”だけでなく保育全体に浸透している。育てる、作る、食べる、知るなど食物を通しての体力作り生活リズムの安定など。
38	年間計画の中に食農指導を入れることで、継続した食育指導が可能になった。
39	はやね、はやおき、あさごはんが定着して来た。
40	子ども達と農業体験(畑づくり)。
41	食育計画を立案し、実践してきた。
42	食育に関する計画を作成し実施。
43	保育士の食育に対する意識が向上し、食育に関する活動も多く見られる。
44	栄養士から指導を受けたり、食育絵本を通して食べ物に関心を持たせている。
45	地域の人々と一緒に取り組む活動が増えた。
46	年間計画を立てて実行することができた。
47	食育指導・クッキング。
48	町だけの食材で学校と一緒に、幼保すべて給食で利用の日を設けた。
49	親子クッキング、園児と栄養士によるクッキング
50	栽培活動、クッキング保育、親子クッキング等食体験の機会を増した。「食育の日」の周知、啓発、四つのお皿のランチオンマートの活用等により、知っている食材の名前が豊富になったり、メニューに使用されている食材に敏感に反応したり、食べ物と体に関心を示すようになった。
51	保育活動の中で、無理なく定期的に入れられるようになった。
52	子どもの発達に合わせた活動が増えた。
53	郷土料理など、地域の食文化を知ること。
54	給食の食材に畑で作った野菜を使うことで、苦手なものが減ってきた。

具 体 的 内 容	
55	保育所の畑「さくらんぼ畑」の栽培活動を通して、食に関しての興味・関心が深まってきた。
56	野菜作り。
57	野菜の栽培活動, エプロンシアター等
58	栄養バランスも考慮するようになった。ターゲットを若い層にシフトしてきた。
59	メタボ及び生活習慣病に対する食生活の取組。
60	親子料理教室の実施。

(2)職員等の意識に関すること 53件

具 体 的 内 容	
1	野菜摂取キャンペーン等において、県内栄養士会での連携した取り組みに、会員が何らかの形で事業に関わり意識の統一が出来た。
2	食に関する関心度が高まっている。
3	食育を意識するようになった。
4	学習会や料理教室など、食育プランを意識している。
5	食事に関心を持つようになった。(自分たちで作った野菜類(ボカシを使った野菜です)を利用し食卓を豊かにすることを進めている)
6	グループ活動目標のひとつに組み入れて活動するようになった
7	計画に沿って実施できている。
8	食の安全安心などにより、一層会員の関心が高まった。
9	生産時の農薬の使い方、適応農薬について関心を持つ会員が増えた。
10	個々への対応、地産地消の位置づけ。
11	食育がイベント的なものではなく、日常の保育(生活)の中で行われていくものであるという認識を職員で持てるようになってきたこと。
12	地場産品をより意識して取り組んでいる。
13	イベント的な活動だけでなく、日々の保育の中で取り組むことが増えた。
14	単発、イベント的な活動ではなく、保育の一環として子どもの育ちにあった活動を大切にしている。
15	地元でとれた作物をできるだけ取り入れようとする意識が高まった。
16	地産地消をより心がけるようになった。
17	保育所で栽培した野菜を積極的に給食に取り入れるようにしている。
18	食材への興味関心が出てきたと思う。
19	園全体で食に対する意識が高まってきたと思う。
20	意識するようになり、保育士との連携もとりやすくなった。
21	園全体で取り組むもの！という意識になってきた。
22	前年度の反省を次年度の計画の参考にして、より良い方法を実施するよう心がけているため。
23	計画を立て、ねらいを持ち活動するようになった。
24	食材の分類へ関心を持つ。どんな働きをする食材かなど、意識して話すようになった。
25	職員の意識が変わった。
26	食育に関する講座により関心が深まった。
27	園児、保護者共に関心が出てきた。

具 体 的 内 容	
28	職員の意識が高く保育に細やかに入るようになった。
29	給食だよりと共に知らせる月の献立表に関心を持って読んだり、親子での会話の中に、給食の話題が聞かれる。
30	調理員と保育士との話し合いを持ちながら、子供たちにとって、よりよい取り組みをしていこうという意識を持って実践している。
31	ミニ菜園作りや、とうもろこしの皮むき、枝豆もぎなどの体験を通して、働く人々の感謝の気持ちと食への関心が高まってきたように感じる。
32	職員の意識が良い方向に変わってきたように思う。
33	食の大切さをどのように伝えていか意識が高まった。・身近なところから実践することを考えられるようになった。
34	年間計画の中に食農指導を入れることで、継続した食育指導が可能になった。
35	食育計画を立案し、実践してきた。
36	食育に関する計画を作成し実施。
37	保育士の食育に対する意識が向上し、食育に関する活動も多く見られる。
38	栄養士より指導を受けたり、食育絵本を通して食べ物に関心を持たせる。
39	保育との関連性が深まった。以前は調理するだけ、作るだけだったが、野菜を育てる過程や調理する人への感謝の気持ち、命(動物、植物)の大切など食を中心として、日々の生活との関わりを子供たちに伝えていけるようになった。また、食育の必要性、大切さを職員間で、共通理解ができるようになった。
40	年間計画を立てて実行することができた。
41	情報が多くなり関心度が高くなったことにより、毎日の保育の中で取り上げることが多くなっていると思う。
42	保護者、保育士共に、野菜栽培や食と生活リズムの関係等に関心が高まった。
43	給食の食材に興味を持つようになった。
44	保育活動に計画的に取り組み行事にも活かしている。
45	食育指導の年間計画が作成され、それに基づいて指導されるようになった。
46	保護者に対する啓蒙が増え、食育が徐々に浸透してきた。
47	保育所の畑「さくらんぼ畑」の栽培活動を通して、食に関しての興味・関心が高まってきた。
48	栗原市食育推進計画の策定。
49	食育計画の作成、食育への関心度が深まった。
50	栄養バランスも考慮するようになった。ターゲットを若い層にシフトしてきた。
51	会員の中にも関心を示す者が増え、会合でもよく話題になっています。
52	食に関する指導の全体計画を作成し、食育を教育の中に具体的に取り入れるようになった。
53	各部会、各施設で取り組む事業に推進プランの考え方を取り入れている。

(3)連携・協働等に関すること 24件

具 体 的 内 容	
1	講座の依頼が増え、内容も充実した。
2	野菜摂取キャンペーン等において、県内栄養士会での連携した取り組みに、会員が何らかの形で事業に関わり意識の統一が出来た。
3	小学校や保育所に行き、紙芝居を作ったの食教育やはやねはやおき、あさごはん(推奨)ダンスの実施。
4	現在、県と共催で開催している「野菜キャンペーン」のような地域へ還元する活動ができた。
5	職域間の連携や関係諸団体との連携。

	具 体 的 内 容
6	給食担当者と保育担当者と一緒に、計画的に取り組んでいる。
7	保健センターの食育事業に子育て支援担当の保育士が参加(今年度初めて)
8	魚に触れる体験。
9	意識するようになり、保育士との連携もとりやすくなった。
10	保育指針も変わり、保育士も積極的に食育に関わるようになり連帯感が増した。
11	食育計画をもとに活動を行うようになった。また、計画も保育士との話し合いによって決めるようになった。
12	他の機関との連携が出来、保護者を交えて食に関して学ぶことができるようになった。また、食に関する相談等もしやすくなる。
13	JA女性部との苗植え。
14	栄養士による子供、親対象の各講座・栄養士、調理師、保育士の連携・植栽とクッキングの内容の広がり。
15	調理員と保育士との話し合いを持ちながら、子供たちにとって、よりよい取り組みをしていこうという意識を持って実践している。
16	名取市食育推進検討委員会が発足、食育研修会が年2回行われている。
17	市の栄養士、施設の栄養士の指導の基に、食育全般にわたり充実してきた。
18	今までは、子どもたちだけの取り組みだったが、家庭に話しかけ一緒に行ったり考えたりすることが増えた。
19	以前からやっていたが、更に食育の強化を栄養士との連携で行っています。
20	栄養士より指導を受けたり、食育絵本を通して食べ物に関心を持たせる。
21	地域の人々と一緒に取り組む活動が増えた。
22	栗原市食育推進計画の策定。
23	関係団体との交流が多くなった。
24	各部会、各施設で取り組む事業に推進プランの考え方を取り入れている。

(4)その他 14件

	具 体 的 内 容
1	計画書があるので市民にも理解されやすい。
2	情報を提供されるだけでなく、主体的に食育に関われる機会や発信する機会が増えた。
3	年間食育計画のねらいを「宮城県食育推進プラン」に則って作成し、実施している。
4	計画を立てて実施している。委員会で反省会を開き次回に役立てている。
5	保護者への啓蒙、食育だより、食育展など。
6	職員の転勤で食育への取り組み方などの情報が増えた。
7	子どもの食育に関する状況を、保護者に伝える。
8	年間を通しての取り組みを計画。
9	今までは、子どもたちだけの取り組みだったが、家庭に話しかけ一緒に行ったり考えたりすることが増えた。
10	まだ、実施していなが、啓蒙する機会をもつ予定。
11	充実させようと努力しているところです。
12	年間計画を立てて実行することができた。
13	保護者に対する啓蒙が増え、食育が徐々に浸透してきた。
14	栗原市食育推進計画の策定。

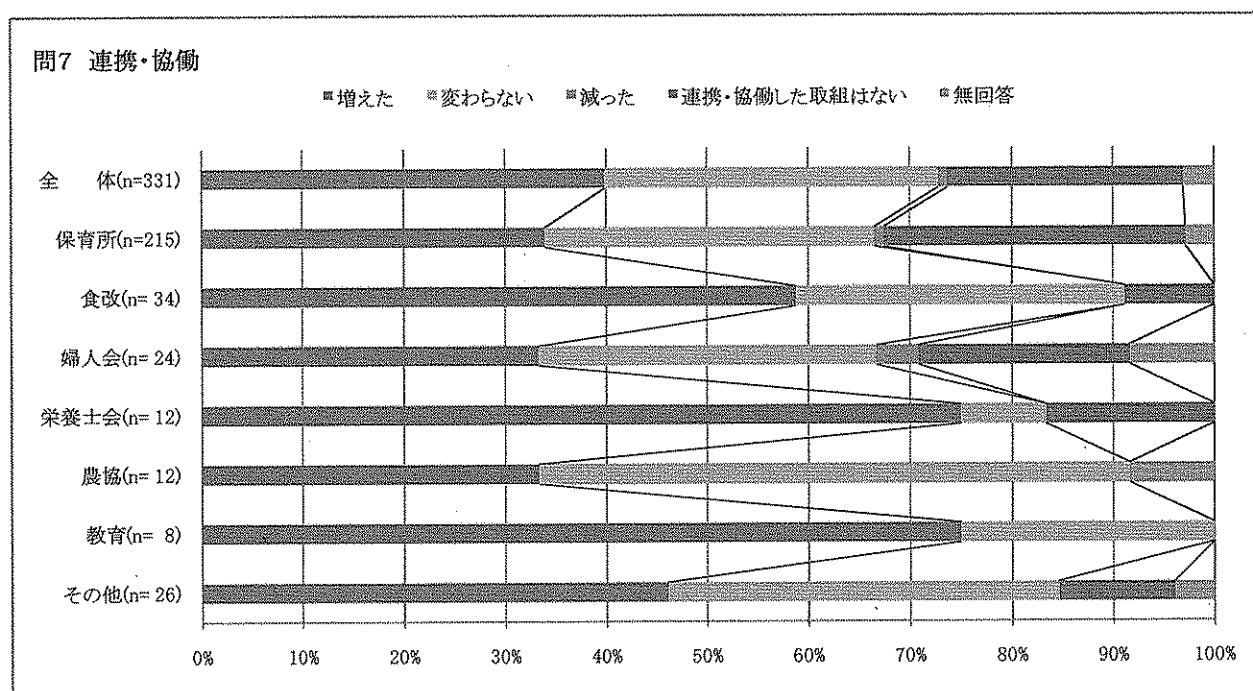
問7 平成18年度以降の他機関・団体等との連携・協働についてお尋ねします。

- 1 増えた
- 2 変わらない
- 3 減った
- 4 連携・協働した取組はない

集計結果

(単位:団体)

	保育所	食改	婦人会	栄養士会	農協	教育	その他	計	%
1	73	20	8	9	4	6	12	132	39.9%
2	70	11	8	1	7	2	10	109	32.9%
3	2	0	1	0	0	0	0	3	0.9%
4	64	3	5	2	0	0	3	77	23.3%
無回答	6	0	2	0	1	0	1	10	3.0%
計	215	34	24	12	12	8	26	331	100.0%



・全体では、「増えた」が39.9%で、以下、「変わらない」が32.9%、「連携・協働した取組はない」が23.3%と続いている。

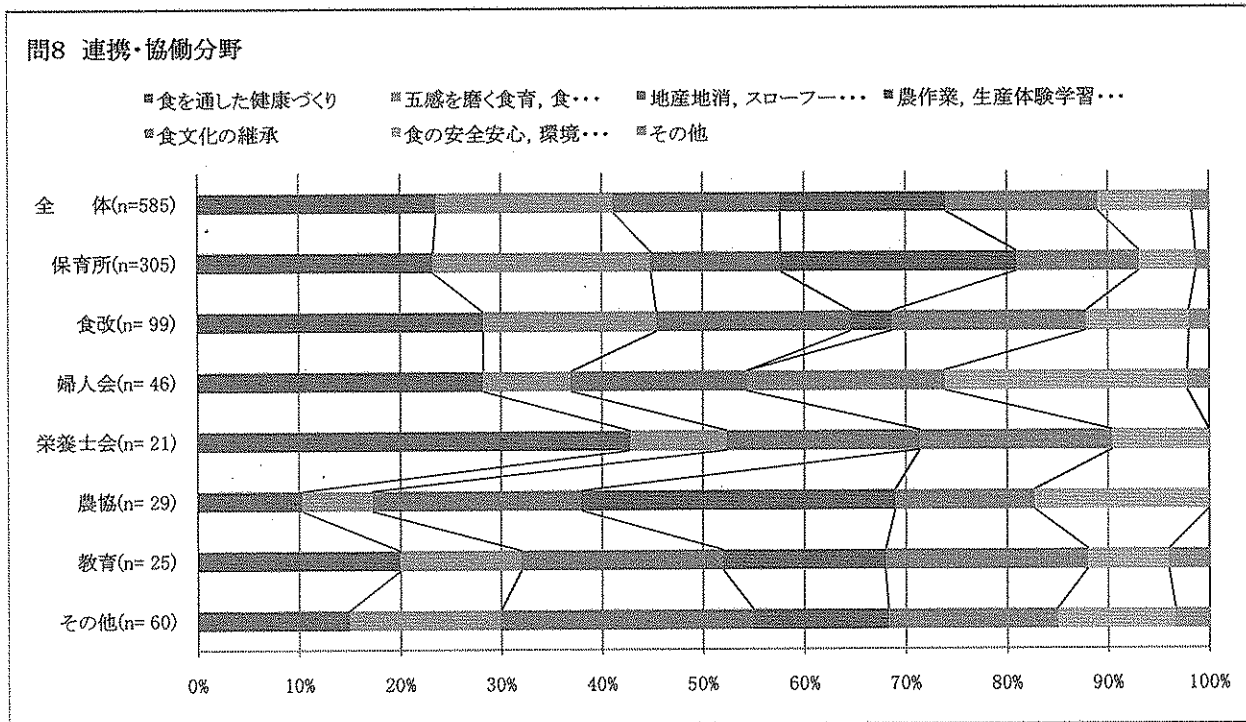
問8 問7で1, 2, 3に回答した方にお尋ねします。
 ①どの分野の機関、組織と連携・協働しましたか。

- 1 食を通した健康づくり
- 2 五感を磨く食育, 食育全般に関すること
- 3 地産地消、スローフードの推進
- 4 農作業, 生産体験学習等への取組支援(食農教育)
- 5 食文化の継承
- 6 食の安全安心, 環境に配慮した食料の生産・消費の推進
- 7 その他()

集計結果

(単位:団体)

	保育所	食改	婦人会	栄養士会	農協	教育	その他	計	%
1	71	28	13	9	3	5	9	138	23.6%
2	66	17	4	2	2	3	9	103	17.6%
3	39	19	8	4	6	5	15	96	16.4%
4	72	4	0	0	9	4	8	97	16.6%
5	37	19	9	4	4	5	10	88	15.0%
6	17	10	11	2	5	2	7	54	9.2%
7	3	2	1	0	0	1	2	9	1.5%
計	305	99	46	21	29	25	60	585	100.0%



・全体では、「食を通した健康づくり」が23.6%で、以下、「五感を磨く食育...」が17.6%、「農作業・生産体験学習...」が16.6%、「地産地消...」が16.4%と続いている。

※その他()の内訳

- ・ 老人施設との交流
- ・ ひとり暮らしの老人に料理指導
- ・ 県や県内PTA組織と取り組んだ
- ・ 運動を取り入れて
- ・ 県主催のイベントで食育寸劇を行った
- ・ 他の保育所
- ・ 市の栄養士会の中での取り組みが増えた。食育パレル展やレシピ集の配布を行った

問8 ②どのような内容の取組を行いましたか。

- 1 栄養のバランスに関する食育
(食生活指針・食事バランスガイド・日本型食生活に関すること)
- 2 生涯を通じた健康づくり・生活習慣病予防のための食生活に関すること
- 3 はやね・はやおき・あさごはん推奨、食生活リズムに関すること
- 4 食の判断力、選択力を養うための食講座
- 5 五感を使った食育、豊かな心を育む食育
- 6 親子で楽しい食体験教室(親子料理教室等)
- 7 地場野菜(県産野菜)を使った料理教室
- 8 魚に関する理解と普及を目的にした取組
- 9 グリーンツーリズム、農・漁業に関する体験学習の取り組み、生産者と消費者との交流
- 10 地域食材を活用した郷土料理、行事食の伝承
- 11 環境にやさしい暮らし方と食生活、食べ物を大切にする取組等
- 12 食の安全安心に関する取り組み
- 13 その他()

集計結果

(単位:団体)

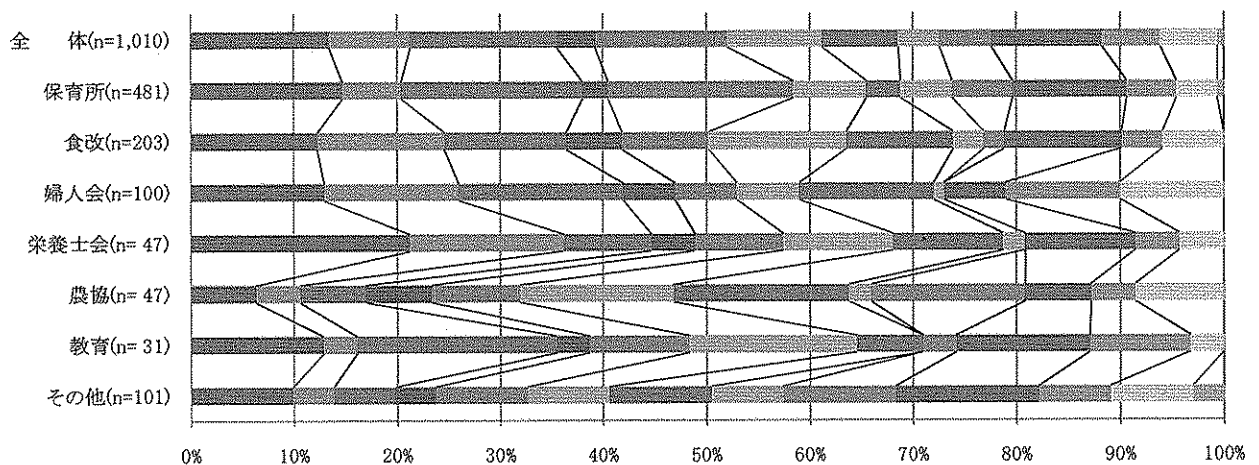
	保育所	食改	婦人会	栄養士会	農協	教育	その他	計	%
1	71	25	13	10	3	4	10	136	13.5%
2	27	25	13	7	2	1	4	79	7.8%
3	85	24	16	4	3	6	6	144	14.3%
4	12	11	5	2	3	1	4	38	3.8%
5	86	17	6	4	4	3	9	129	12.8%
6	34	27	6	5	7	5	8	92	9.1%
7	16	21	13	5	8	2	10	75	7.4%
8	24	6	1	1	1	0	7	40	4.0%
9	28	4	0	0	7	1	11	51	5.0%
10	53	23	6	5	3	4	14	108	10.7%
11	23	8	11	2	2	3	7	56	5.5%
12	19	12	10	2	4	1	8	56	5.5%
13	3	0	0	0	0	0	3	6	0.6%
計	481	203	100	47	47	31	101	1,010	100.0%

13その他()の内訳

- ① 農地を借り、栽培から管理、加工までを体験
- ② 圏域の食文化の発信による、地域の見つめ直し、食への意識の醸成
- ③ 食の体験を取組
- ④ 米の精米体験
- ⑤ 情報交換
- ⑥ 市の栄養士会の中での取り組みが増えた。
- ⑦ 食育パレル展やレシピ集の配布を行った。

問8-② 連携・協働内容

- 栄養のバランス…
- 生涯を通じた健…
- はやね・はやおき…
- 食の判断力、選…
- 五感を使った食…
- 親子で楽しい食…
- 地場産野菜(県…
- 魚に関する理解…
- グリーンツーリズ…
- 地域食材を活用…
- 環境にやさしい…
- 食の安全安心…
- その他



・全体では、「はやね・はやおき…」が14.3%で、以下、「栄養のバランス…」が13.5%、「五感を使った食…」が12.8%、「地域食材を活用した…」が10.7%と続いている。

問8 ③連携・協働したことによりどのような成果がありましたか。

- 1 他の団体の取組への理解が深くなった。
- 2 体感・体験を通した学びの場を提供することができた。
- 3 それぞれの持ち味、得意分野を分担することにより効果的に進めることができた。
- 4 食育の幅が広がった。
- 5 みんなで食育を支えていこうという共通意識を持つことができた。
- 6 連携先を介して地域の社会資源(人、食材、産業)に気づき、活用することができた。
- 7 その他()

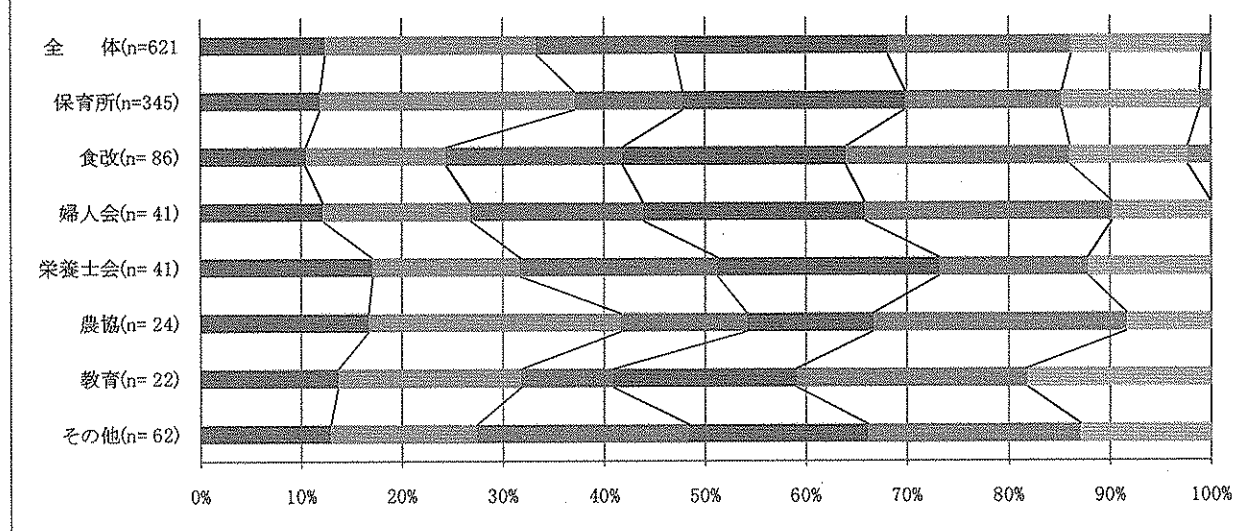
集計結果

(単位:団体)

	保育所	食改	婦人会	栄養士会	農協	教育	その他	計	%
1	41	9	5	7	4	3	8	77	12.4%
2	87	12	6	6	6	4	9	130	20.9%
3	37	15	7	8	3	2	13	85	13.7%
4	76	19	9	9	3	4	11	131	21.1%
5	53	19	10	6	6	5	13	112	18.0%
6	47	10	4	5	2	4	8	80	12.9%
7	4	2	0	0	0	0	0	6	1.0%
計	345	86	41	41	24	22	62	621	100.0%

問8-③ 連携・協働の成果

- 他の団体の取組への…
- 体感・体験を通した…
- それぞれの持ち味…
- 食育の幅が広がった
- みんなで食育を支えていこうという共通意識…
- 連携先を介して地域…
- その他



・全体では、「食育の幅が広がった」が21.1%で、以下、「体感・体験を通した学びの場…」が20.9%、「みんなで食育を支えていこうという共通意識…」が18.0%と続いている。

※7その他()の内訳

- ① 個人的にも自信がいった。PRする場がふえた。活動範囲も広くなり何を伝えるかが見える。
- ② 取り組みの様子などを他の人に提供することができた。
- ③ 保護者の協力を得ている。
- ④ 高校生とのさつまいもの苗植えや、いもほりなど。
- ⑤ 老人に対する理解、いたわりの心を育てることができた。

問8 ④連携・協働にあたってどのような課題がありましたか。

- 1 調整してくれる機関・担当者がいない。
- 2 事業を企画してから実施するまで時間がかかる。
- 3 相手の理解・協力が得られないと、思いはあっても連携できない。
- 4 各々事業計画を調整するのが難しい。
- 5 予算の確保や調整が難しい。
- 6 その他()

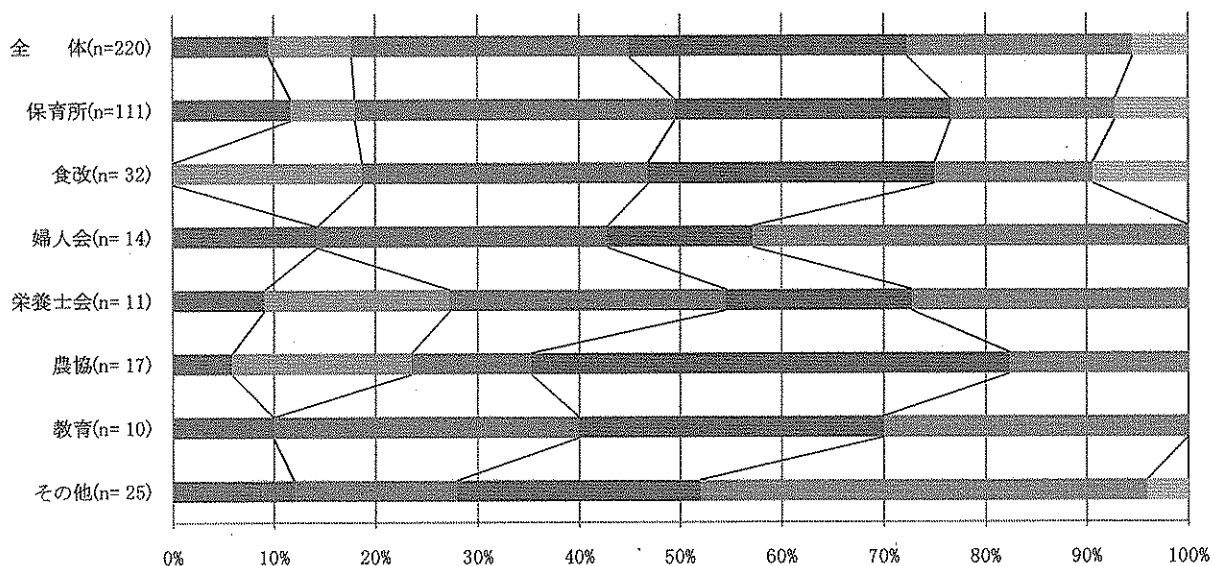
集計結果

(単位:団体)

	保育所	食改	婦人会	栄養士会	農協	教育	その他	計	%
1	13	0	2	1	1	1	3	21	9.5%
2	7	6	0	2	3	0	0	18	8.2%
3	35	9	4	3	2	3	4	60	27.3%
4	30	9	2	2	8	3	6	60	27.3%
5	18	5	6	3	3	3	11	49	22.3%
6	8	3	0	0	0	0	1	12	5.5%
計	111	32	14	11	17	10	25	220	100.0%

問8-④ 連携・協働の課題

■調整してくれる機... ■事業を企画してか... ■相手の理解・協力... ■各々事業計画を調... ■予算の確保や調... ■その他

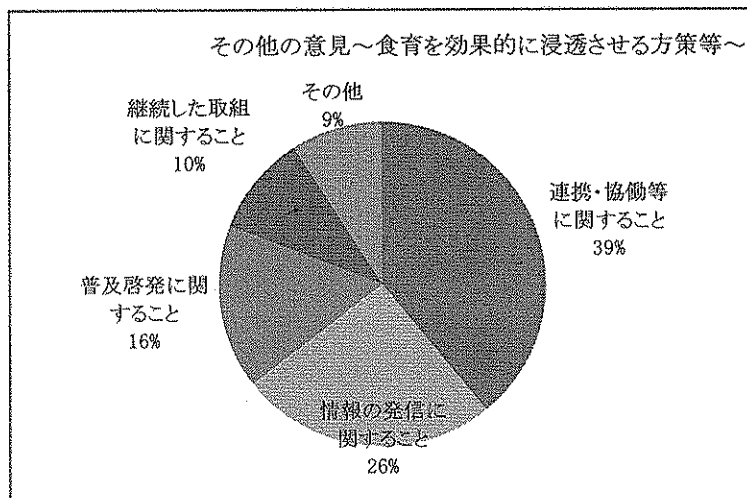


・全体では、「相手の理解・協力が得られないと、思いはあっても連携できない」と「各々事業計画を調整するのが難しい」が共に27.3%で、以下、「予算の確保や調整が難しい」が22.3%と続いている。

Ⅲ その他の意見～食育を効果的に浸透させるための方策等について～

集計結果

区 分	件数
連携・協働等に関すること	43
情報の発信に関すること	28
普及啓発に関すること	18
継続した取組に関すること	11
その他	10
計	110



1 その他の意見～食育を効果的に浸透させる方策等について～ 110件

(1) 連携・協働に関すること 43件

No.	区分	主 な 意 見
1	工夫・留意点	その地区のイベントや企画に積極的に協力して、食改のこともピーアールできるようにしている。
2		他機関担当者同士のコミュニケーションや顔つなぎができていると良いと思う。また、JA内部での連携をより深めていくようにしたいと思う。営農関係では、生協さんとの食農交流を行っている。
3	課題	はやね・はやおき・朝ごはんを浸透させたいが、中々若い人たちとの出会いが少ないので、どのようにして会合を持ったらよいか、普及するすべを検討中。
4		主婦や高齢者には食育の機会があるが、子供たちへの食育の発信はチャンスをつくれな。
5		市の栄養士(市、民間保育園の栄養士)とは、年に数回打合せを設け、食育のパネル展などを行っていますが、その他の機関との連携という、どこから始めることがやりやすさがあるのか分からない状況。まずは、園内の食育活動を充実させたいという思いが強いので、よい方法があればより多くの情報を知りたい。
6		JAの場合は、食農教育ということで、地産地消ぐるみで取り組んでいる。対象者は、どうしても組合員、地域住民と考えてしまう。担当する職員も専任ではないので、時間のない中での計画となりがちで、実施寸前にもう少し他機関への働きかけを早めにと良かったと反省している。
7	提案	行政と関係機関、各団体と連携を密にして食育に関する知識や情報を提供し、市民、県民に食育について関心を高めると共に、乳幼児からの食習慣の基礎形成を計り、家庭、地域との連携を強化し、食育の大切さを広めていってはどうか。
8		食育に関連する団体を組織化し、事業を進めることが大事と考える。(それぞれの団体が交流出来るようにすると、人的な交流(講師等)や資金(予算)面、食材の提供などお互い連携しあうことができるので、より一層「食育」に関する関心度も高まり、浸透定着が図れるのではないかと考える。)
9		食育の問題をまだまだ家庭(親)の中の問題と考えている人が多いと思う。これからは子供たち自らが食への知識と自立を養えるように、教育現場とうまく連携を図る必要があると思う。体験することが一番なので、そのような場面をつくれるように考えなければと思う。

10	提案	子供を対象にした食育の場合、学校はとても魅力的です。学童農園もあり効率的に食育を推進出来ると思うからです。学校の先生の中には、農業体験をしたことのない人も多いと聞きます。きっと困ってらっしゃると思います。一方校長先生方はどうでしょうか？食育を理解し実践しようとお考えでしょうか？地域と学校が連携するには、校長先生の行動力が重要だと思います。若い農業のしたことのない先生の声聞いて地域の人のコーディネートを図っていただきたいと思う。
11		それぞれの市町村、各職域毎、各々で独自に色々な形で食育に取り組んでいるとは思いますが、まず、浸透させる側の縦横の連携が大切かと思われる。
12		様々な関係機関が、お互いに情報を発信して、一緒に出来る事業は得意分野を活かして実施できる体制が出来ればよいと思った。
13		農家と料理人の協働により、食農学習の幅が広がるので、各地域の関係者に呼びかける。
14		団体同士のコミュニケーションの場を持つ。
15	要望	校長先生のリーダーシップと栄養教諭のやる気がピタリと合致して、それに続く先生までが一丸となって食育に向き合っていることに感心します。それが、子供を介して家庭にまで届いております。リーダーの姿勢が学校や地域を変えられることができるのだと感心させられます。そこで是非、県内の多くの校長先生の理解を促していただきたいと思います。先生方の中には農に関わる事を敬遠する向きもありますが、変わりように驚いております。忙しい教育現場ではありますが、若い先生方には田や畑に出る機会を設けてもらい、地域の中で育つ教師がひとりでも増える事例が生まれれば、中途退職の若い教師が減る事になるのではと思います。
16		連携調整してくれる体制が整っているか私たちにはわからない。体制の整備を希望しています。
17		産業振興課と保健福祉、教育委員会等の関連機関各が、各々の事業をするのではなく、食育について一丸となり、事業を進めていけばいいのではないのでしょうか。

(2)情報の発信に関すること 28件

No.	区分	主 な 意 見
1	課題	出前講座 地域にいる食育活動をしている方を知るきっかけがない。 一般的に市内の私立幼稚園などへの案内(一覧表)などがあると嬉しい。
2	提案	生産者、販売者、消費者等様々な方面から「食育」を発信する。
3		良い情報はどんどん流していただきたい。食育は各家庭からも出来ること。各家庭が食育の場であることを市民県民の皆様に伝えることかと思う。
4		食育という言葉は何年か前からよく聞きますが、具体的にどんなことなのかわからない人も多いと思う。保護者なども、もっとわかりやすく馴染みやすい言葉で伝えていくと、県民の人達もわかりやすいかなと思う。
5		スーパー等で買う際に、目に止まる様な場所に、食育に関する情報を掲示していくと、浸透しやすいのではないかと思います。
6	要望	出前講座 地域にいる食育活動をしている方を知るきっかけがない。 一般的に市内の私立幼稚園などへの案内(一覧表)などがあると嬉しい。
7		みやぎの広報誌やテレビ、市町村の広報誌など幅広く宣伝し、市民への啓蒙をどんどんしてほしい。
8		食育を実施している情報がないため、連携、協働がしにくい。団体の組織、内容等を知りたいので紹介してほしい。

No.	区分	主 な 意 見
1		将来ある子供たち(幼稚園、学校)等への出前講座・今年初めてスポーツ少年団事業を計画中。 各団体会長会議時(健康まちづくり、学校給食、各婦連)等々食育についての3分間PR。
2	工夫・留意点	町民一人ひとりと行政、関係機関など、それぞれの役割に応じた活動を進めていくとともに、お互いが連携協力し「食育」を町民運動として、6月・11月を「涌谷町食育月間」と定めて食育運動を重点的に実施する「涌谷町食育推進計画」が策定されている。 今年度は大会テーマ「朝ごはんを毎日食べる割合を増す」ことを目標に朝ごはんについて考え、食べる大切さを啓発する。 関係機関団体等の活動内容の展示、地場産品コーナー、協議会においては、地場産を使った簡単レシピの1針70gバランスガイド活用の試食をしていただき、理解と協力のもとに町民運動を推進している。
3	課題	他の団体と連携・協働の事業の時、食育についてのチラシ・今日の試食のレシピ等の配布をしていますが、まだまだPRが足りないと感じている。
4		飲食店やファミリーレストラン等で宮城県の食材を使い、栄養のバランスを意識したメニューを取り入れてもらう。同様にコンビニ、スーパー等でもお弁当として売り出す。
5		手軽に作れるレシピを色々な場所に置いておく。(お店、市町村、保育所、幼稚園、学校等)
6		生協などで、小学生の親子を対象に農業体験バスツアーなどを企画しているが、対象を保育園児まで広げるともっと浸透していくのではないかと思う。
7		園児の時から色々な職業の方々とお食を通しての触れ合いをもっと多く持つようにすると良いと思います。その為の予算などもとっていただくと、よりスムーズに計画が立てられるのではと思う。
8		食育とは何かということをご一般の人たちにわかってもらうことが必要ではないか。食育に感心を持つ人を核に、理解の輪を広げる方法を推進していく。 食べることを大切にできる生活をする。毎日の食をなおざりにして、中高年に健康を害することがないように働きかける。 自分で考えて生活できる子供の育成に努める。今はあまりに恵まれすぎている。 早寝・早起き・朝ごはんのスローガンについて、食べた方がいいに決まっているが、なぜ食べられないか、食べないかを考えて、その背景にあるものに目を向け、根本から解決しないとダメだと思います。生活習慣病についても同様だと思う。
9	提案	地域ぐるみで食育の成功した具体例等、わかりやすい言葉で紹介し、県民を啓蒙していく。 保育所、幼稚園、小中学校他、それぞれの小さい単位の栄養士が、今後も引き続き食育を手掛けて次第に食育を広げるようにしていく。
10		保護者に食育の大切さを認識してもらえるよう、いろいろな場所に目を引くようなポスターを貼るのもいいのではと思う。スーパーや小売店にも協力してもらい掲示してもらおうと、より効果があると思う。
11		地域ぐるみで食育の成功した具体例等、わかりやすい言葉で紹介し、県民を啓蒙していく。 保育所、幼稚園、小中学校他、それぞれの小さい単位の栄養士が、今後も引き続き食育を手掛けて次第に食育を広げるようにしていく。
12		それぞれの町での食育の取り組み等で、テレビや新聞で紹介されたりしているが、料理(おいしい料理)を作って、おいしく食べて終わりということも多いように思う。 イベントだけでなく、将来に渡って丈夫な子どもを育てるためにどうすれば良いかについては、マスコミでは比較的情報も少ないように思う。 宮城県は全国的にもむし菌が多い県だとか。また子供達や大人の肥満、運動不足であるなど、健康面についてPRするコマーシャル(解決策)を出来たら良いと思う。
13		調理ができる設備の整った車を貸し出し、イベント等に活用する。
14		日本には四季があり、季節によって美味しい食材や調理法が違ってくるので、旬の食材を使い、春夏秋冬それぞれの旬の味を味わう。その際に、家庭でも食育をしていける様な働き掛けをする。

15	要望	宮城県内統一の旗・ノボリ等を立てたりして目に訴える事が出来ればいいと思います。「はやね・はやおき・あさごはん」、「野菜をもっと食べよう」、「毎月19日は食育の日」などの事業のテーマにあわせて、県内統一の旗・ノボリ等を作ってほしい。
16		食育は人を育てる基礎ですので、小さな子どもを持つPTAのお母さん方に特に参加してもらえるような、体制、仕組みをお願いします。

(4) 継続した取組に関する事 11件

No.	区分	主 な 意 見
1	工夫・留意点	食改活動は継続が大切。
2		定期的に食育に関するイベントを行う。 家庭での食のあり方が、子どもの心身に大きく関わってくるので、親子で参加するイベントを繰り返し行う。
3		いつも感じる事は「食」は身近すぎて大切なんだけれど、手抜きしやすい分野だと思います。そういう意味では草の根活動の重要性をとっても感じています。
4		相互理解による、繰り返しの話し合いや実践を継続していく。
5		1年だけでなく、継続できるとよい。
6		保育所、幼稚園、小学校等で、栄養士、食改員、時には生産者が連携し、調理実習等を継続的に行う。
7	要望	今後も、県として食育推進事業を継続して行っていただきたい。

(5) その他 10件

No.	区分	主 な 意 見
1	工夫・留意点	地域への発信をし、開かれた園作りに努める。 相互理解による、繰り返しの話し合いや実践を継続していく。
2	課題	自分たちがしっかりと分かっていないとだめだと思う。そのためには、講演や専門の方の実践指導などが必要ではないかと思う。
3	提案	一般会社等と遊休農場を使って、社員家族の食育の場を設定させたい。 食するためには育てる楽しさが有ることを実体験できるシステムが行政を介して何かできないか。
4		行政が行っている各幼児期の検診時などに、食育についてのお話しなどを実施した方がより効果があると思う。
5		子供が肉体的にも精神的にも健康であるためには、運動によって空腹感を感じさせて、食欲を高めさせるべきである。 学校でもただ食べることに感心を持たせようというのではなく、空腹でなければ食欲もわかないので、食欲が出るような取り組みをすることが大切ではないかと考える。
6		体験を、より多くするような講座を実施していくこと。
7	要望	予算、人材確保、調整機能全ての面で不足している。行政も民間も食育以外の差し迫った課題に追われ、折角のプランも後回しになっている。

